氏　　名	中山　元
学位の種類	博士（　医学　）
学位記番号	博甲第　10129　号
学位授与年月	令和　3　年　9　月　24　日
学位授与の要件	学位規則第４４条第２項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	慢性症状を抱える人とその家族介護者に対して多職種から提供されるケアの質を家族介護者のエクスペリエンスとして測定する ――尺度開発ならびに家族介護者のエクスペリエンスと予防的健康行動との関連の検証――
主　　査	筑波大学教授　博士（医学）　新井　哲明
副　　査	筑波大学教授　医学博士　田宮　菜奈子
副　　査	筑波大学准教授　博士（医学）　高橋　晶
副　　査	筑波大学助教　博士（医学）　堀　愛

論文の内容の要旨

中山元氏の博士学位論文は、患者とその家族介護者に対して多職種から提供されるケアの質を「家族介護者のエクスペリエンス」として測定する尺度を開発し、家族介護者のエクスペリエンスと介護者自身の健診受診との関連性について調査したものである。その要旨は以下のとおりである。

（第１章）

著者は本論文の研究背景として、プライマリ・ケアにおける家族介護者のケアの理論やその現状についてまとめ、多職種による協働的で統合的なケアが必要であることを論じている。また、ヘルスケアのプロセス指標の一つとして、患者がケア・プロセスのなかで経験する事象を意味する「ペイシェント・エクスペリエンス（PX）」と呼ばれる概念の重要性を説明している。その上で著者は、専門職から提供されるケア・プロセスのなかで家族介護者が経験する事象を意味する「家族介護者のエクスペリエンス」に着目し、この概念が多職種ケアのプロセス評価の一指標として有用と考えられる旨を論じている。その上で著者は、世界的に数少ない家族介護者のエクスペリエンス尺度として、慢性症状を抱える人を介護する家族介護者を対象としたIEXPAC CAREGIVERSと呼ばれる尺度に着目した．そして、著者は、家族介護者のエクスペリエンスと家族介護者自身の他の臨床指標との関連性を明らかにすることが有益な知見になると考え、その指標として家族介護者の予防的健康行動に着目したことを述べている．

以上の研究背景を踏まえて著者は本論文の目的を、【1】日本語版 IEXPAC CAREGIVERS を開発してその計量心理学的特性を検証すること、【2】家族介護者のエクスペリエンスと家族介護者の予防的健康行動としての健診受診との関連性を予備的に検証すること、そして【3】追加調査研究により同関連性についてより詳細に検証することであるとしている。

【1】尺度開発（第 2 章）

著者は、スペインで開発された IEXPAC CAREGIVERS を尺度翻訳の国際ガイドラインに準拠した方法で日本語翻訳し、2019 年 10 月から 11 月に、関東地方の 3 自治体において、慢性症状を抱える人を 6 ヶ月以上介護する家族介護者を対象とした横断的な質問票調査を実施している。その結果、日本語版の作成に関して著者は、複数の研究者で異文化間の相違の適応を図り、また、質問票への回答時の理解などを尋ねる面接を通して日本語表現の改良を図ったことで、一定の言語的妥当性が担保されたと考えられると述べている．また、計量心理学的特性の検証について著者は、因子分析による構造的妥当性の他、内的整合性信頼性、収束的妥当性、既知集団妥当性が示されたことで、当尺度が本邦において慢性症状を抱える人とその家族介護者に対して提供される多職種によるケアの質を家族介護者のエクスペリエンスとして測定する尺度として、一定の信頼性と妥当性を有していると結論している．

【2】予備的検証（第 3 章）

著者はまず研究背景として、先行研究を踏まえつつ、家族介護者の健診受診の重要性について論じている。そして、著者は家族介護者のエクスペリエンスと健診受診との関連を予想する上での理論的背景として、ソーシャルサポートが予防的健康行動を促進することを説明している。その上で著者は、フォーマル・サポートの一側面を反映する家族介護者のエクスペリエンスが、自身の予防的健康行動に関連するのでないかとの仮説を立てている．

以上の背景を踏まえて、著者は尺度開発時のデータを用いて、日本語版 IEXPAC CAREGIVERS 得点と家族介護者の過去 1 年以内の健診受診との関連について予備的な検証を行っている。その結果、解析対象者 251 名において、当尺度の各得点と健診受診との関連は、総合得点（1SD 増加あたり aOR=1.53; 95%CI 1.09-2.13)、「患者に焦点」得点（同 aOR=1.50; 95%CI 1.08-2.08)、「家族介護者に焦点」得点（同 aOR=1.48; 95%CI 1.06-2.08）のいずれも有意差を認めたと述べている．この結果を受けて著者は、「家族介護者に焦点」得点が健診受診と関連したことは、ソーシャルサポートの先行研究で説明される機序と合致すると説明している。一方、著者は「患者に焦点」得点と健診受診との関連については理論的には説明されにくいと考え、両者の関係には「家族介護者に焦点」得点が影響を及ぼしたのではないかと推察している．また、著者は未測定の交絡因子の存在などが本研究の限界であった可能性について述べている．

【3】追加調査研究（第 4 章）

予備的検証の結果を受けて著者は、2020 年 11 月から 12 月に茨城県の 3 自治体において 40 から 74 歳の家族介護者を対象とした横断研究を実施している．要因を日本語版 IEXPAC CAREGIVERS 得点、アウトカムを健診受診、共変量を家族介護者の社会経済的要因・主観的健康観・インフォーマルなソーシャルサポート等とした多変量解析により検証を行っている．その結果、解析対象者 644 人において、総合得点および「家族介護者に焦点」得点は健診受診と有意に関連した（1SD 増加あたり aOR=1.23; 95%CI 1.01-1.49、同 aOR=1.26; 95%CI 1.03-1.53）一方、「患者に焦点」得点では有意差を認めなかった（同 aOR=1.17; 95%CI 0.96-1.42）ことが示されている．結果を受けて著者は、家族介護者の健康の維持に繋がると期待される予防的健康行動の強化に際し、医療介護福祉職が家族介護者自身をケアする意義を示すことができたと結論している．

（第 5 章　総括）

尺度開発研究の結果を受けて著者は、日本語版 IEXPAC CAREGIVERS が、地域包括ケアシステムの推進において有用な材料の一つとなることを期待したいとしている．そして、家族介護者のエクスペリエンスと健診受診との関連に関する研究を通して著者は、プライマリ・ケア提供者をはじめとした医療介護福祉職が、家族介護者自身に注意を向けたケアの質を向上することで、家族介護者が自らを大切にして、健診受診という予防的健康行動を促進し得る可能性が示唆された、とまとめている．

審査の結果の要旨

（批評）

ケアの質評価指標として、患者本人ではなく家族介護者に着目して、その数値化を試みた本研究は新規性が高く、ツールとして確立すれば、その有用性が期待される。さらに、著者はそのツールを活用して、家族介護者自身の予防的健康行動との関連を明らかにしており、この成果は多職種で家族介護者のケアに取り組む意義を示したものとして評価できる。

令和３年７月２日､学位論文審査委員会において､審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。